

きらケア介護白書

2020



自分らしく働ける介護を。

きら✦ケア



PRODUCED BY Leverages

きらケア介護白書 2020

はじめに	3
------	---

01. 介護士の属性

1-1. 自身の性格について	5
1-2. 最終学歴	5
1-3. 介護士通算勤続年数	6
1-4. 雇用形態	6
1-5. 現在働いている事業所規模	6
1-6. 資格・雇用形態別手取り月給について	7
1-7. 介護士になった年齢	8
1-8. 介護業界以外に働いたことのある業界と職種	10

02. 介護士のキャリア

2-1. 介護士として働こうと思った一番の理由	11
2-2. 離職経験とその理由	12
2-3. 介護士として働くメリット	13
2-4. 介護士として働くデメリット	14
2-5. 今後思い描いているキャリア	15
2-6. 仕事に対する価値観	15
2-7. 仕事をする上でこだわる条件	16
2-8. 介護士のやりがい	16
2-9. 介護士のモチベーション	17
2-10. 介護士として働いた印象	18
2-11. 介護事業所の研修期間	19
2-12. 事業所への要望や取り組んでほしい施策	21

きらケア介護白書 2020

03. 介護士の仕事選びの軸

3-1. 介護士としての就職 / 転職軸		22
3-2. もう一度介護士として就職・転職するときの軸		22
3-3. 現在のキャリアの満足度		23
3-4. キャリアに満足している理由		25
3-5. キャリアに満足していない理由		25
3-6. 仕事選びで妥協できる点		26

04. 事業所の外国人雇用の現状

4-1. 外国人雇用をしているか		27
4-2. 外国人受け入れ意欲について		29
4-3. 外国人受け入れに対する不安内容		29
4-4. 外国人雇用でどのような環境変化が見られたか		30
4-5. 外国人受け入れ時、不安に感じたこと		31
4-6. 外国人を実際に受け入れて困ったこと		32
4-7. 雇用している外国人の国籍と在留資格		33
4-8. どのように採用しているか		34

はじめに

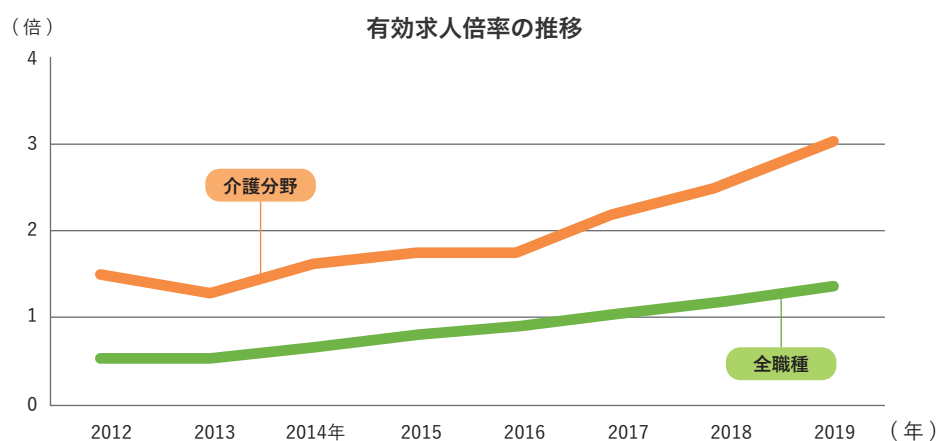
厚生労働省※1 が発表した調査によると、介護職の有効求人倍率は全職業よりも高い水準で推移しています。

また、「公益財団法人介護労働安定センター」が平成 29 年度に発表した「介護労働実態調査結果」によると、介護職の従業員が不足している理由の 1 位には「採用が困難（88.5%）」※2 があげられ、約 9 割の事業所が採用に苦戦しています。

経産省の調査結果では、2035 年に約 79 万人の介護人材が不足することも発表されました。人材確保が難しい理由として、「人材獲得競争が厳しい（56.9%）」「他産業に比べて労働条件がよくない（55.9%）」があげられています。

※1 厚生労働省「職業安定業務統計」

※2 公益財団法人介護労働安定センター 平成 29 年度介護労働実態調査結果



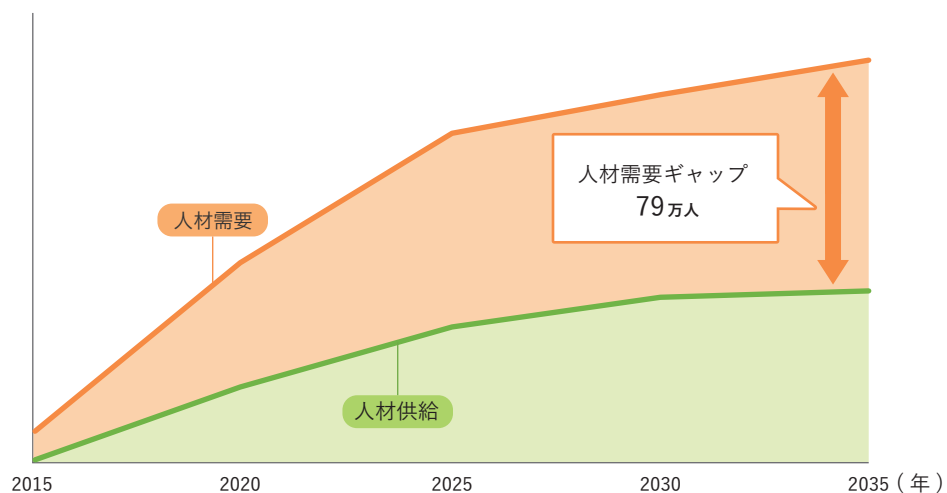
出展：内閣府「平成 29 年版高齢社会白書」

介護職の人材不足を解消するためには、「介護職のイメージアップ」や「労働環境の整備」、「外国人人材の活用」が重要になってきます。

本記事では、現在介護士として働かれている方の「現状」や「仕事に対する思考」、「外国人労働者」の現状について調査を行いましたので、ご紹介します。介護業界が発展していく一助となれば幸いです。

本調査の、調査概要は最終ページを御覧ください。

将来推計(介護職員の需給)



出展：経済産業省「将来の介護需給に対する高齢者ケアシステムに関する研究会報告書」

01 介護士の属性

1-1. 自身の性格について

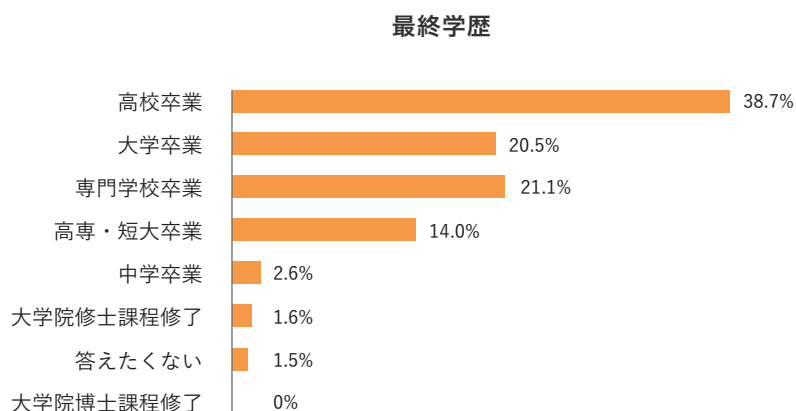
自身の性格について、本調査で「真面目」と回答した人は約 60%、次いで「マイペース（40.9%）」、「明るい（33.4%）」と続きます。

自分の性格		
1位	真面目	(56.9%)
2位	マイペース	(40.9%)
3位	明るい	(33.4%)
4位	優しく温厚	(32.8%)
5位	協調性が高い	(26.8%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

1-2. 最終学歴

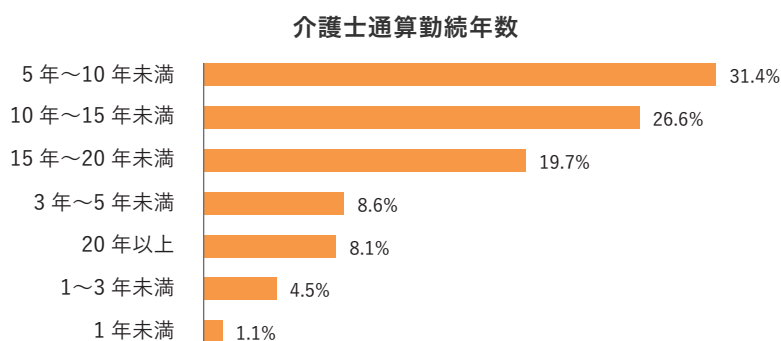
介護士の最終学歴で最も多いのは「高校卒業（38.7%）」、「専門学校卒業（21.2%）」となりました。高校卒業後の割合が多い理由として、高校卒業後の進路を「就職」と考えている学生が、学校から案内されたケースや、課外実習などで介護施設に行ったことがきっかけで、最初から介護士を目指して就職した学生も多いようです。



※ 回答者数：2188人

1-3. 介護士通算の勤続年数

介護士としての通算勤続年数は、「5年～10年未満（31.4%）」が最も多く、次いで「10年～15年未満（26.6%）」「15年～20年未満（19.7%）」と続きます。



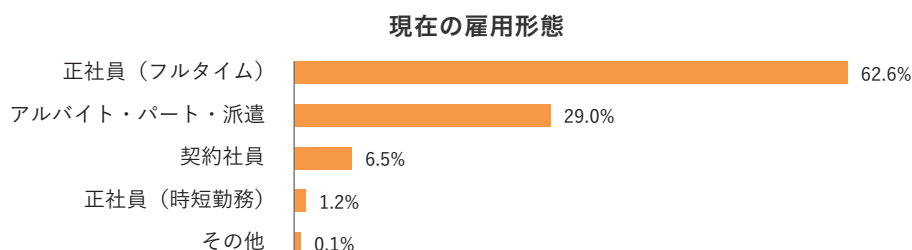
※ 回答者数：2188人

1-4. 雇用形態

現在の雇用形態では、「正職員」としてフルタイムで働いている人が6割を超えます。次いで、約3割が「アルバイトや派遣」で働いていることが明らかになりました。

介護士は、女性の割合が多く家庭の事情（子育てなど）で、日勤のみを希望する人も多いのが現状です。そのため、自ら「アルバイトや派遣」を選択しているケースが多いと考えられます。

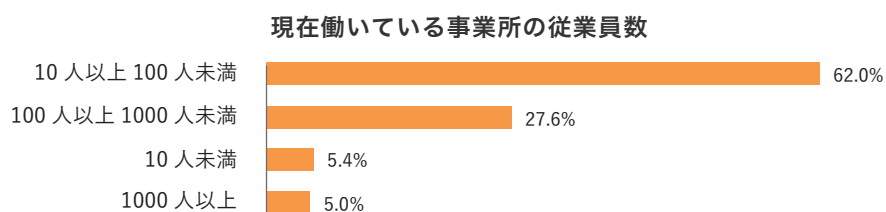
※厚生労働省「介護職員に占める介護福祉士の割合について」



※ 回答者数：2188人

1-5. 現在働いている事業所規模

現在働いている事業所の規模数では、「10人以上100人未満」の事業所で働いている介護士が6割を超え、半数以上の介護士が「10人以上100人未満」の事業所で働いていることがわかりました。



※ 回答者数：2188人

1-6. 資格・雇用形態別手取り月給について

雇用形態別に見た手取り月給は正社員のほうが高い傾向にあり、資格別に見た場合特に差はありませんでした。

雇用形態・資格別に見た手取り月給

初任者研修 / ヘルパー 2 級					
正社員			契約社員		
1位	20 万円未満	(24.2%)	1位	15 万円未満	(34.9%)
2位	25 万円未満	(14.4%)	2位	20 万円未満	(16.9%)
3位	22 万円未満	(12.4%)	3位	17 万円未満	(14.5%)

介護福祉士					
正社員			契約社員		
1位	15 万円未満	(28.6%)	1位	15 万円未満	(31.1%)
2位	17 万円未満	(23.8%)	2位	17 万円未満	(15.6%)
3位	20 万円未満	(23.8%)	3位	20 万円未満	(11.1%)

訪問介護 2 級					
正社員			契約社員		
1位	20 万円未満	(23.2%)	1位	15 万円未満	(31.1%)
2位	22 万円未満	(14.5%)	2位	17 万円未満	(15.6%)
3位	25 万円未満	(11.6%)	3位	22 万円未満	(13.3%)

実務者研修 / ヘルパー 1 級					
正社員			契約社員		
1位	20 万円未満	(24.3%)	1位	15 万円未満	(29.4%)
2位	25 万円未満	(14.2%)	2位	20 万円未満	(23.5%)
3位	22 万円未満	(11.7%)	3位	17 万円未満	(17.6%)

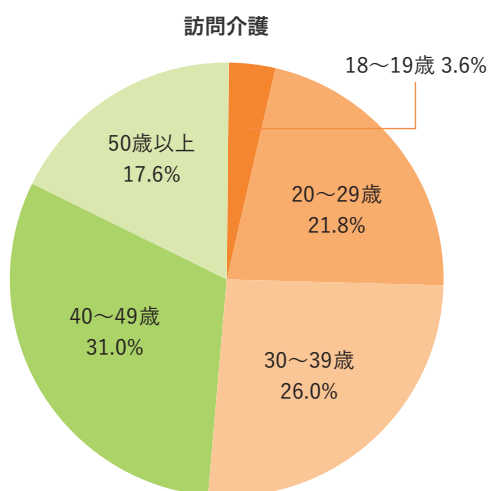
※正社員はフルタイムのみ ※3位まで抜粋 ※正社員：1369人、契約社員：142人

1-7. 介護士になった年齢

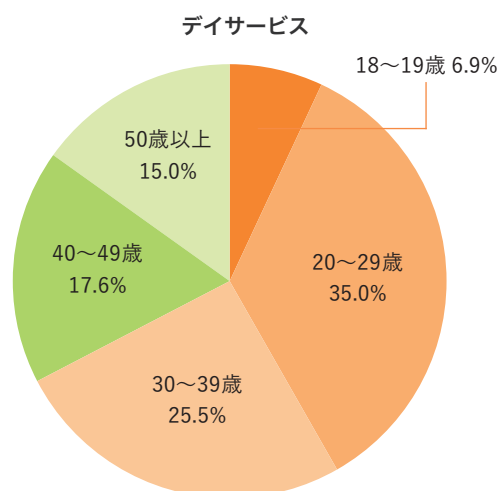
デイサービスと入所施設（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム・有料老人ホーム）、介護老人保護施設では「20 歳～24 歳」で、介護士に就いた人は約 3 割となりました。

訪問介護と入所施設（グループホーム）では、約 2 割が「40 歳～44 歳」で介護士に就いたと、回答しました。訪問介護は資格や経験が問われる職種のため介護経験の長い介護士が選択します。また、時間の融通が多少利きやすくなるため、子持ちの介護士が選択することもあります。

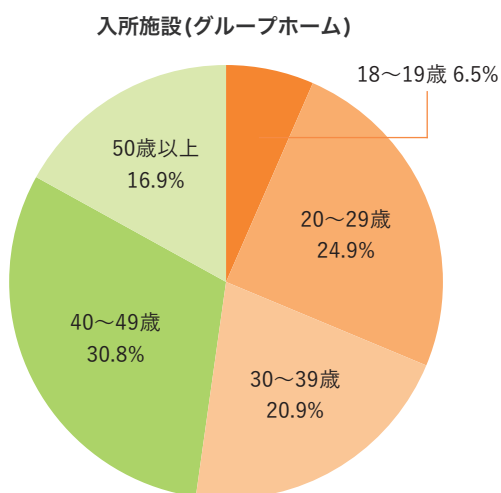
介護士に就いた年齢



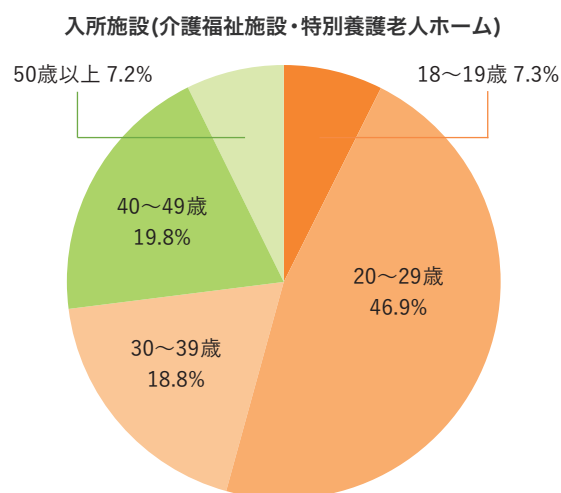
※ 回答者数：335人



※ 回答者数：306人



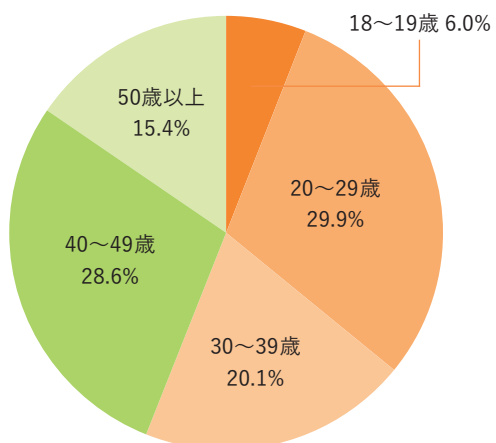
※ 回答者数：201人



※ 回答者数：531人

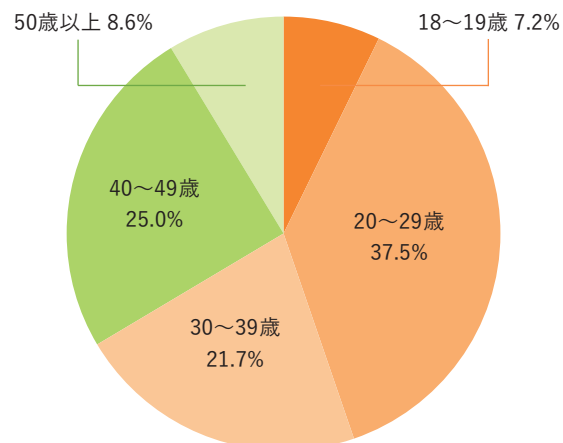
介護士に就いた年齢

入所施設(有料老人ホーム)



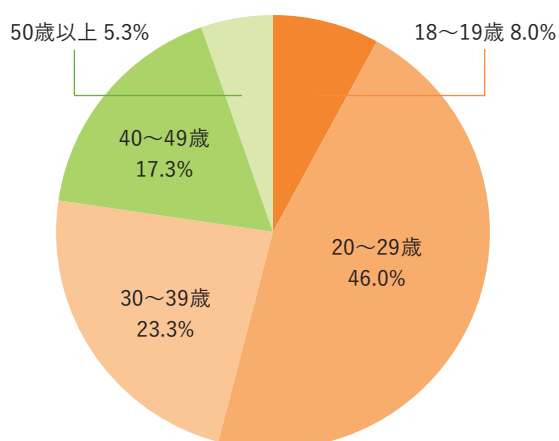
※ 回答者数: 234人

病院・診療所・介護療養型医療施設



※ 回答者数: 152人

介護老人保健施設



※ 回答者数: 150人

1-8. 介護業界以外に働いたことのある業界と職種

介護業界以外に働いたことのある業界や職種については、「経験がない」を除き、「サービス業」や「小売や外食」で働いたことのある人が多いことが分かりました。

介護業界以外に経験のある業界

1位	他業界で正社員として勤務した経験はない	(35.1%)
2位	サービス業	(24.7%)
3位	その他	(15.1%)
4位	小売や外食	(9.1%)
5位	商社や流通	(8.8%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

介護業界以外に経験のある職種

1位	他職種で働いていたことはない	(35.4%)
2位	接客や販売系	(22.9%)
3位	事務やアシスタント	(19.1%)
4位	営業系	(13.0%)
5位	その他	(9.3%)

※ 回答者数：2188人 ※ 5位まで抜粋

02 介護士のキャリア

2-1. 介護士として働こうと思った一番の理由

介護士として働こうと思った理由の1位には「手に職をつけたいから（22.3%）」、「身内や身近な人の介護経験から（15.6%）」「資格や技能が活かせるから（14.1%）」と続きます。

AIが進歩していく中で、人と真正面から向き合う仕事のため、介護はAIに変わりにくいといわれています。介護現場では人が中心となり、AIはあくまでサポート役として働くことになります。手に職をつけ、将来的に長く働きたいという理由で介護士になる人は多いようです。

介護士として働こうと思った一番の理由

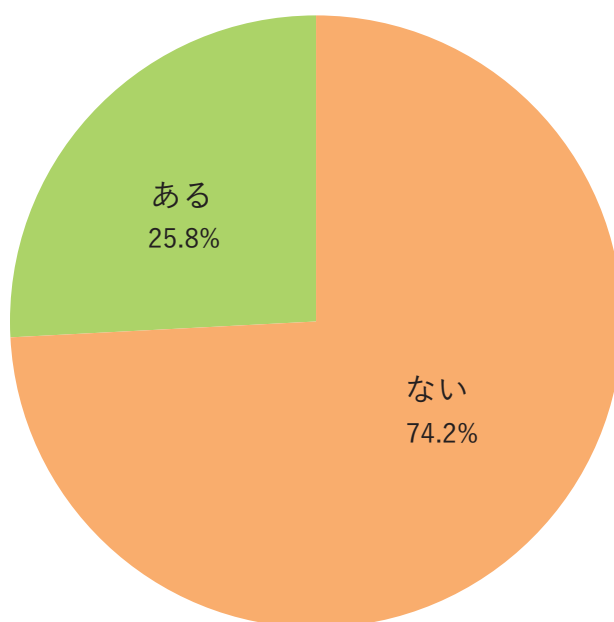
1位	手に職をつけたいから	(22.3%)
2位	身内や身近なヒトの介護経験から	(15.6%)
3位	資格や技能が活かせるから	(14.1%)
4位	困っている人のためになりたいから	(12.8%)
5位	お年寄りをサポートしていきたいから	(11.7%)

※ 回答者数：2188人 ※ 5位まで抜粋

2-2. 離職経験とその理由

介護業界を離れたことがある人は、約 3 割。介護業界を離れた理由では、「結婚や出産、育児 (23.4%)」のためが多く、「職場の人間関係 (15.6%)」、「体調不良 (12.7%)」と続きます。「収入面」が問題で、介護業界を離れたことがある人は少ないことが明らかとなりました。

介護業界から離れたことはあるか



※ 回答者数：2188人

介護業界を離れた一番の理由

1位	結婚や出産、育児のため	(23.4%)
2位	職場の人間関係	(15.6%)
3位	体調不良（精神的に体調不良になったなど）	(12.7%)

※ 回答者数：568人 ※ 3位まで抜粋

2-3. 介護士として働くメリット

介護士として働くメリットの1位は「自分の家族を介護するときに役立つ（50.9%）」、「手に職がつく（42.3%）」「今後伸びていく業界で、無くなることのない（38.4%）」と続きます。

高齢化社会となった現在の日本では、多くの介護の現場で人手不足が問題となっています。社会的にも役に立っていることをやりがいに感じる介護士は多いようです。

「2018年度版高齢社会白書」では、平成29年10月1日時点における高齢者の数は3,515万人、高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）は27.7%と発表され、2060年頃には、約2.5人に1人の割合で65歳以上の高齢者になることが予想されています。

高齢化が進むことによって、介護サービスの需要は高まり、介護業界はなくなることはない業界のため、介護士は貴重な人材となります。

介護士のメリット

1位	家族を介護するときに役立つ	(50.9%)
2位	手に職がつく	(42.3%)
3位	今後伸びていく業界のため、なくなることはない	(38.4%)
4位	利用者や家族から感謝される	(36.7%)
5位	医療に関する知識を習得できる	(32.6%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

2-4. 介護士として働くデメリット

介護士として働くデメリットの1位は「スタート時の給与水準が低いこと（60.0%）」が最も多く、「職場の人間関係（44.4%）」、「思ったようなケアができないこと（38.9%）」と続きます。

介護士のデメリット

1位	スタート時の給与水準が低いこと	(60.0%)
2位	職場の人間関係	(44.4%)
3位	思ったようなケアができないこと	(38.9%)
4位	夜勤があるため体調管理が大変なこと	(38.1%)
5位	シフト制のため友人などと休みが合わないこと	(28.1%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

介護士のスタート時の給与水準の平均は270,740円（勤続1年～1年11ヶ月）。また、勤続年数が長くなるにつれ、平均給与額は年々上昇している事が分かります。※

厚生労働省では、介護士の「処遇改善の充実」に向けた政策を発表しました。これは、キャリアパスの仕組みを作成することや、環境改善や制度整備を行った事業所に対して、国から支給される手当のことです。

役職や仕事内容に応じて賃金の設定ができることや、資格取得や研修費用事業所が負担したり、勤続年数や取得した資格に応じて昇給を設けるなどが要件としてあげられています。介護業界の給料を取り巻く環境が、徐々に改善されていることがわかります。

介護職員の平均給与額の状況

勤続年数	給与平均(月額)
1年（勤続1年～1年11ヶ月）	264,550円
2年（勤続2年～2年11ヶ月）	271,110円
3年（勤続3年～3年11ヶ月）	279,020円
4年（勤続4年～4年11ヶ月）	283,520円
5～9年	297,130円
10年以上	332,330円

※ 平成30年度介護従事者処遇状況等調査結果

2-5. 今後思い描いているキャリア

今後思い描いているキャリアに関しては、「その他（35.4%）」と回答した人が最も多い結果となりました。

「その他」の自由解答欄には、「このままを希望する」「キャリアアップは望まない」「資格を取得しながらも今まで通り働きたい」などが、多くあげられ、キャリアアップ等を望まずに、今まで通りの働き方を希望する人が多いようです。

今後思い描いているキャリア

1位	その他	(35.4%)
2位	他の業界へ転職したい	(22.6%)
3位	ケアマネジャーを目指したい	(21.2%)
4位	マネジメント職を目指したい	(14.6%)
5位	施設長を目指したい	(3.7%)

※ 回答者数：2188人 ※ 5位まで抜粋

2-6. 仕事に対する価値観

介護士の仕事に対する価値観 1 位は「人間関係を大切に働けること（58.6%）」、次いで「自分らしい生活が送れること（47.3%）」「プライベートを大切にできること（43.5%）」と続きます。

「より多くのお金をもらうこと（25.4%）」を選択する方は少なく、「人間関係」を大切に働けることを重視している人が多いようです。

仕事に対する価値観

1位	人間関係を大切に働けること	(58.6%)
2位	自分らしい生活が送れること	(47.3%)
3位	プライベートを大切に出来ること	(43.5%)
4位	人や社会の役に立つこと	(41.0%)
5位	専門性やスキルが身につくこと	(39.4%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

2-7. 仕事をする上でこだわる条件

仕事をする上でこだわる条件 1 位には「人間関係 (27.5%)」があげられました。次いで「収入や給与 (23.2%)」、「職場環境 (14.4%)」と続きます。「勤務地」や「教育体制」などよりも、「人間関係」や「職場環境」を重視している人が多いことが分かりました。

職場での人間関係が良好な場合は、仕事以外の話題についても自然と言葉を交わすようになり、仕事で失敗して落ち込んでいるときは、従業員同士で励ましあったりすることができます。

人間関係が悪化すると、仕事がやりづらくなったり、ストレスを感じるが多いため、居心地のよい職場で働くことを求めている人は多いと考えられます。

仕事で最もこだわる条件

1位	人間関係	(27.5%)
2位	収入や給与	(23.2%)
3位	職場環境	(14.4%)
4位	労働条件	(11.2%)
5位	勤務地	(9.5%)

※ 回答者数：2188人 ※ 5位まで抜粋

2-8. 介護士のやりがい

介護士のやりがい 1 位には「介護の知識やスキルが身につくこと (50.9%)」、次いで「人や社会の役に立つことができる (49.0%)」、「働きがいのある仕事ができること (43.9%)」と続きます。

介護士は、利用者の生活に寄り添いながら、日々を快適に過ごせるように、様々なサポートをする役割を担っています。利用者が生きがいを見つけ、いきいきと日々を過ごす姿を見ると人の役に立っているという実感や、やりがいを感じるそうです。

介護士のやりがい

1位	介護の知識やスキルが身につくこと	(50.9%)
2位	人や社会の役に立つことができること	(49.0%)
3位	働きがいのある仕事ができること	(43.9%)
4位	資格や技能が活かせること	(43.2%)
5位	介護した方から感謝の言葉をもらえること	(34.7%)

※ 回答者数：2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

2-9. 介護士のモチベーション

モチベーションの1位には「介護した方からの感謝の言葉 (57.3%)」が挙げられ、次いで「人の役に立てること (52.4%)」「仕事が楽しい (37.3%)」と続きます。

介護士は、利用者やその家族から日常的に感謝の言葉をかけてもらえます。利用者の方によっては、1人で生活を送ることが困難な方もいます。介護士は、困っている利用者のニーズを汲み取り、コミュニケーションを通じて解決するため、利用者にとって介護士はとても頼もしい存在です。

また、利用者がリハビリなどを通して出来なかったことが出来るようになったときや、利用者の笑顔を見ることも、やりがいを感じます。

働く中で、直接「ありがとう」と感謝の言葉を言われることや、利用者やその家族の笑顔を直接見れる機会の多い介護士の仕事は、非常にやりがいのある仕事です。

介護士として働くモチベーション

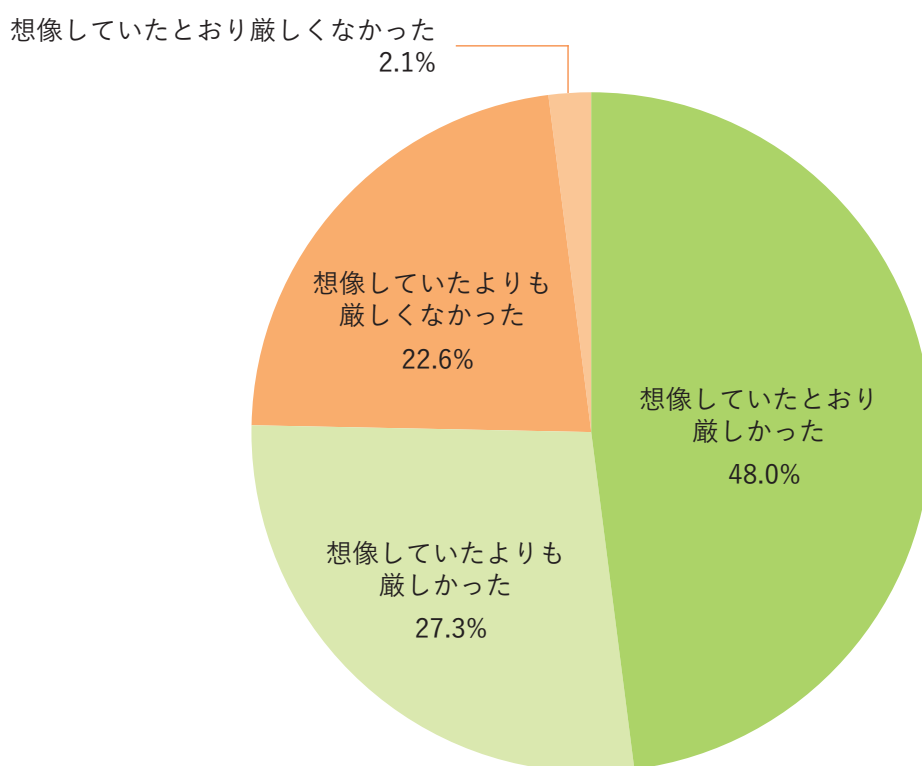
1位	介護した方から感謝の言葉もらえること	(57.3%)
2位	人の役に立てること	(52.4%)
3位	仕事が楽しい、面白いこと	(37.3%)
4位	専門的なスキルや技能が身につけられること	(34.6%)
5位	社会との関わりがもてること	(24.7%)

※ 回答者数: 2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

2-10. 介護士として働いた印象

介護士として働いた印象では、「想像していたとおり厳しかった（48.0%）」が、1位にあげられました。

介護士は、利用者の食事の介助や入浴介助といった身体介助も含め、体や体力を使うことが多い仕事です。それだけでなく、掃除や利用者の買い物に付き添ったりもするため、業務に慣れるまでは仕事を厳しいと感じる人も多いそうです。



※ 回答者数：2188人

2-11. 介護事業所の研修期間

研修期間については、「ない」事業所が大半を占め、実施している事業所でも長くて「1週間～1ヶ月」ということが明らかになりました。介護老人保健施設の研修期間は「3ヶ月（15.3%）」と比較的に長く、介護老人保健施設の母体は病院系列が多いため、看護師同様、しっかりと教育プランがたてられていることが考えられます。

介護事業所の研修期間

訪問介護			デイサービス		
1位	研修はない/なかった	(45.1%)	1位	研修はない/なかった	(47.4%)
2位	～1週間	(21.8%)	2位	～1週間	(16.0%)
3位	～1ヶ月	(14.9%)	3位	～1ヶ月	(14.4%)
4位	～3ヶ月	(7.2%)	4位	～3ヶ月	(11.8%)
※ 回答者数：335人			※ 回答者数：306人		

入所施設(グループホーム)			入所施設(介護福祉施設・特別養護老人ホーム)		
1位	研修はない/なかった	(38.8%)	1位	研修はない/なかった	(33.0%)
2位	～1週間	(17.4%)	2位	～1ヶ月	(18.6%)
3位	～1ヶ月	(16.9%)	3位	～1週間	(16.2%)
4位	～3ヶ月	(11.9%)	3位	～3ヶ月	(16.2%)
※ 回答者数：201人			※ 回答者数：531人		
			※ 3位、4位まで抜粋		

介護事業所の研修期間

入所施設（有料老人ホーム）

1位	研修はない/なかった	(41.9%)
2位	～1週間	(18.4%)
3位	～1ヶ月	(16.2%)
4位	～3ヶ月	(10.7%)

※ 回答者数：234人

病院・診療所・介護療養型医療施設

1位	研修はない/なかった	(46.1%)
2位	～1週間	(19.7%)
3位	～3ヶ月	(15.8%)
4位	～1ヶ月	(9.9%)

※ 回答者数：152人

介護老人保健施設

1位	研修はない/なかった	(44.7%)
2位	～3ヶ月	(15.3%)
3位	～1週間	(12.0%)
4位	～1ヶ月	(10.7%)

※ 回答者数：150人

その他介護サービス事業所

1位	研修はない/なかった	(39.8%)
2位	～1週間	(19.4%)
3位	～1ヶ月	(15.1%)
4位	～3ヶ月	(12.2%)

※ 回答者数：279人

※ 3位、4位まで抜粋

2-12. 事業所への要望や取り組んでほしい施策

事業所への要望や取り組んでほしい施策については、

「何を目指すべきかわからないので、キャリアパスについて相談したい」という声が多くあげられました。これは、事業所側と従業員とで定期的な個別面談を行い、事業所側の期待していることを伝えたり、従業員それぞれの目標を作成したりすることが、改善案としてあげられます。

また、「介護の勉強会の開催をしてほしい」という要望も多くあげられていました。

勉強会を開催することは事業所の方向性を示す際の有効な手段の1つです。また、今までの情報を整理する時間を作ったり、復習する機会があることは、従業員の介護技術のスキルアップや、成長に繋げることが可能です。

事業所への要望や取り組んでほしい施策

☒ 手当を増やす

☒ 記録はPCで取るようにしたい

☒ 人員増員

☒ 研修制度の充実

☒ 設備に投資

☒ 資格取得手当がほしい

☒ 勉強会を開催してほしい

☒ キャリアパスの相談がしたい

※ 自由記述、一部抜粋

03 介護士の仕事選びの軸

3-1. 介護士としての就職 / 転職軸

介護士として、就職・転職活動をしていたときの企業選びの軸の1位には、「勤務地」を重視する方が多く、60%を超えました。「休日休暇日数」や「教育体制」「研修制度」を選ぶ方は、少ない結果となりました。

介護士として一番はじめに就職・転職活動したときの軸

1位	勤務地	(61.2%)
2位	給与 / 年収	(28.2%)
3位	職場環境	(18.6%)
4位	福利厚生	(16.5%)

※ 回答者数: 2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

3-2. もう一度介護士として就職・転職するときの軸

もう一度介護士として就職・転職活動を行うとなったときの判断軸は、「人間関係」が3位となりました。また、「勤務地」よりも「給与・年収」を気にしている人も多く見受けられます。

もう一度介護士として就職・転職するときの軸

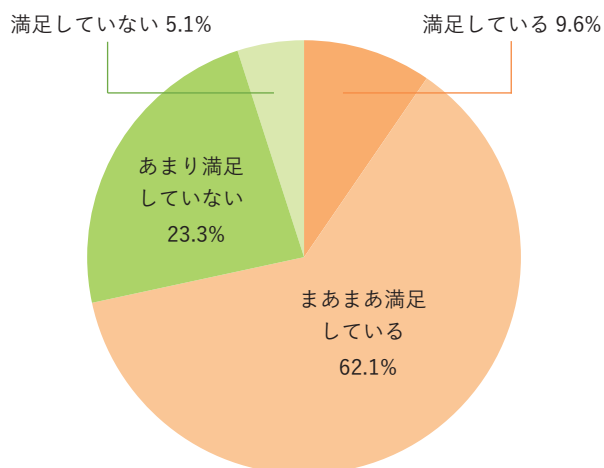
1位	給与 / 年収	(57.5%)
2位	勤務地	(50.0%)
3位	人間関係	(35.8%)
4位	職場環境	(33.1%)
5位	福利厚生	(31.2%)

※ 回答者数: 2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

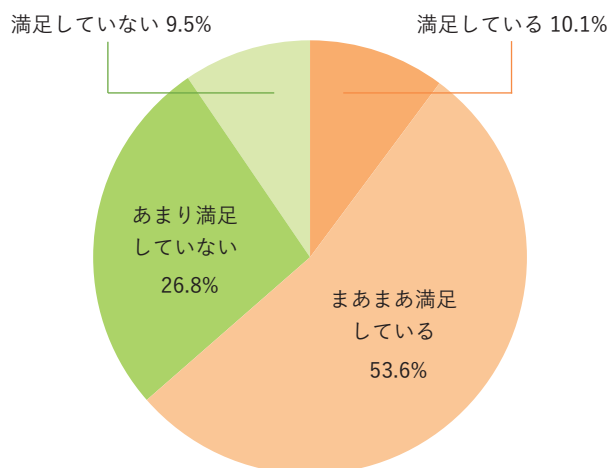
3-3. 現在のキャリアの満足度

現在のキャリアの満足度は、事業所別で見ても「満足している」と回答した人が、6割を超えました。

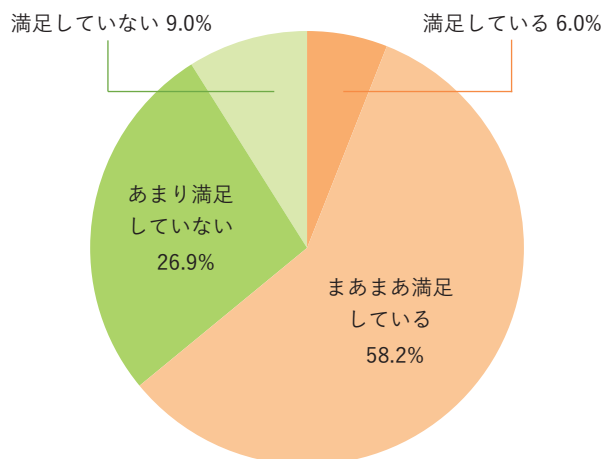
訪問介護



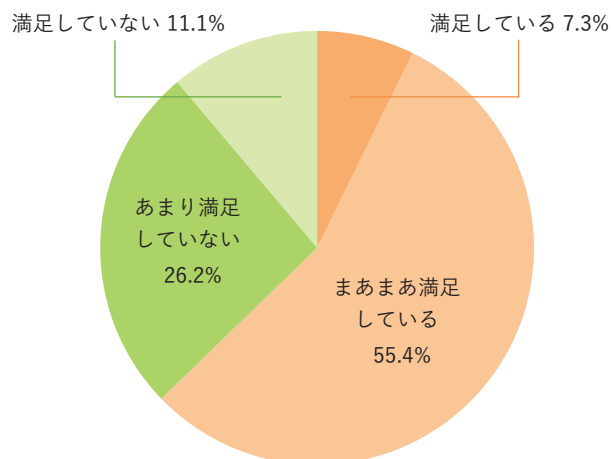
デイサービス



入所施設（グループホーム）

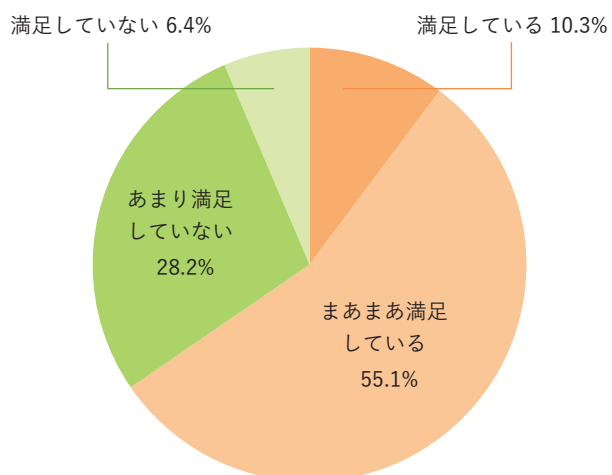


入所施設（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム）

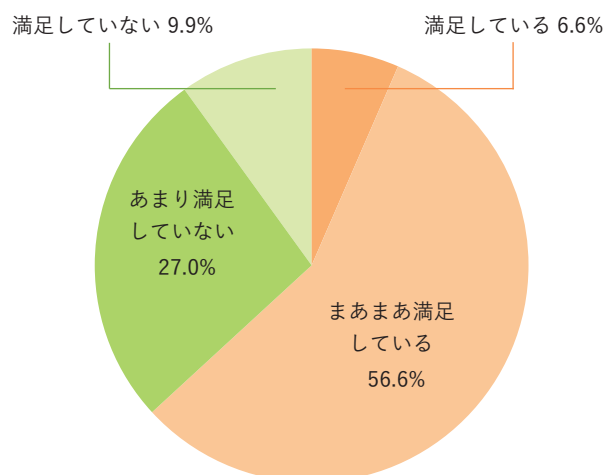


※ 回答者数：2188人

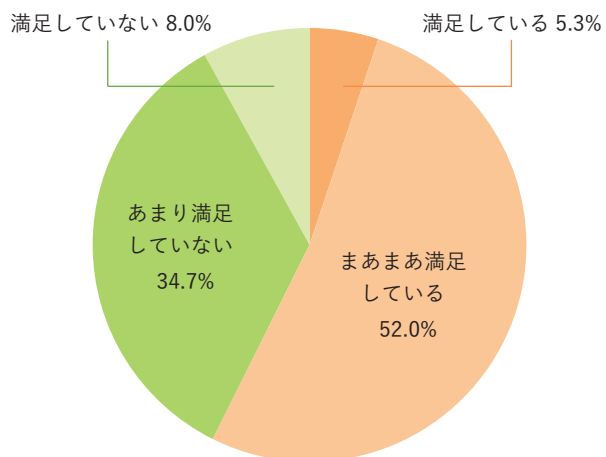
入所施設（有料老人ホーム）



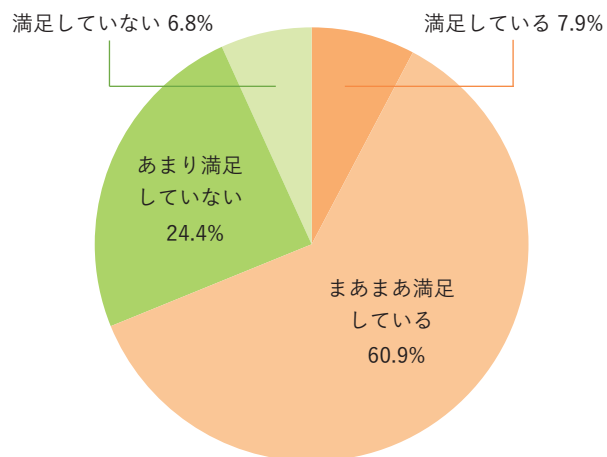
入所施設（病院・診療所・介護療養型医療施設）



介護老人保健施設



その他介護サービス事業



※ 回答者数：2188人

3-4. キャリアに満足している理由

キャリアに満足している理由の上位には「人間関係」「勤務地」「休日休暇日数」があげられました。

キャリアに満足している理由

※介護士としてはじめて就職・転職活動時、どのような判断軸で企業を選んだのか。
企業判断軸でのキャリア満足度を調査

1位	人間関係	(15.5%)
2位	勤務地	(14.4%)
3位	休日休暇日数	(12.6%)
4位	福利厚生	(9.7%)
5位	働き方の自由度	(9.4%)

※ 回答者数：1424人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

3-5. キャリアに満足していない理由

キャリアに満足していない理由の1位には「給与水準が低いこと（67.9%）」が1位となり、「成長しにくい環境（27.6%）」や「人間関係の悪さ（26.8%）」があげられました。

満足していない理由

1位	給与水準が低いこと	(67.0%)
2位	人間関係の悪さ	(27.6%)
3位	成長しにくい環境	(26.8%)

※ 回答者数：764人 ※ 複数回答 ※ 3位まで抜粋

3-6. 仕事選びで妥協できる点

仕事選びで妥協できる点として一番多かったのは「事業所の知名度 (46.7%)」、次いで「ネームバリュー (42.0%)」となりました。「通勤時間 (23.9%)」も上位に入り、通勤時間をそこまで気にしていないこともわかりました。

仕事選びで妥協できる点

1位	事業所の知名度	(46.7%)
2位	ネームバリュー	(42.0%)
3位	通勤時間	(23.9%)
4位	教育・研修制度	(21.8%)
5位	残業時間	(20.4%)

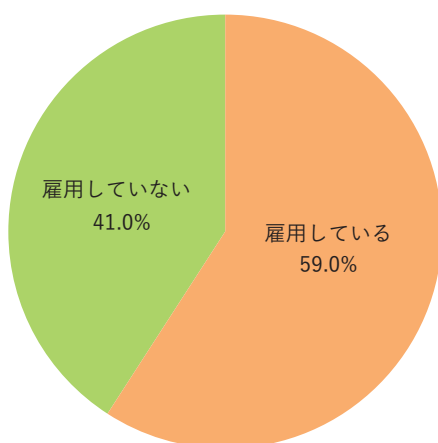
※ 回答者数: 2188人 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

04 事業所の外国人雇用の現状

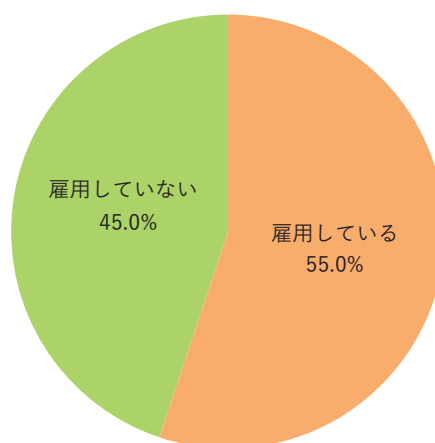
4-1. 外国人雇用をしているか

事業所別で見た実際の外国人雇用については「訪問介護」「デイサービス」「入所施設（グループホーム）」「入所施設（有料老人ホーム）」「介護老人保健施設」の、5割以上が雇用していることがわかりました。

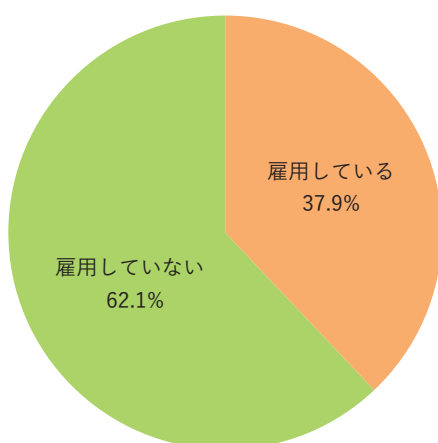
訪問介護



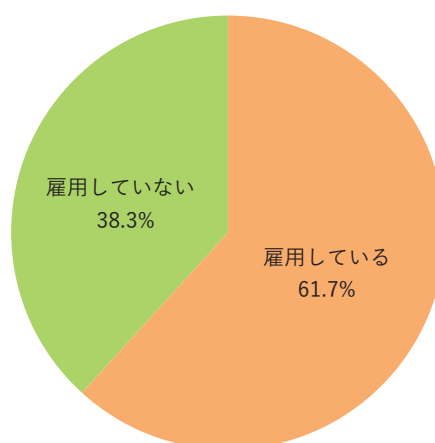
デイサービス



入所施設（グループホーム）

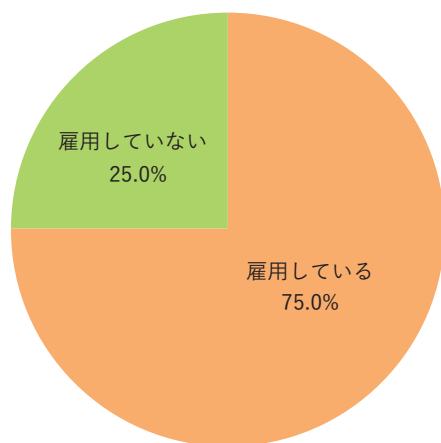


入所施設（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム）

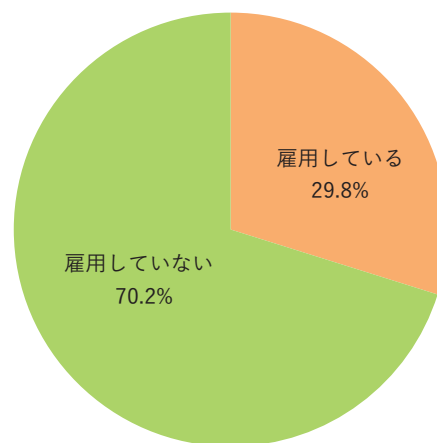


※ 回答事業所数：541

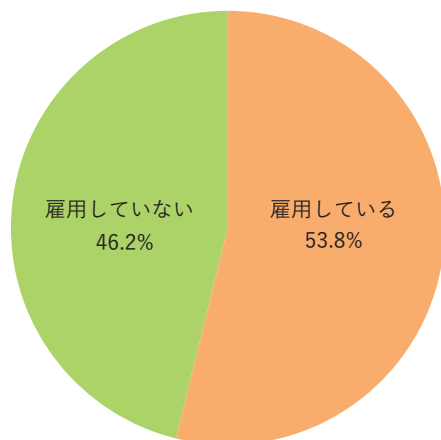
入所施設（有料老人ホーム）



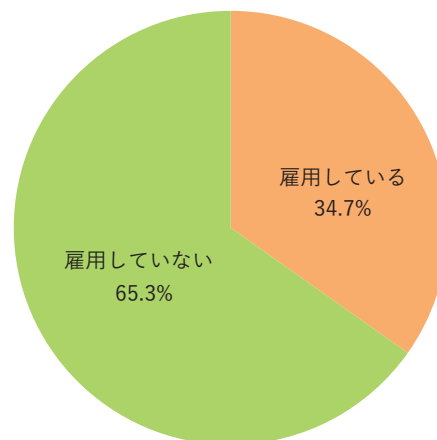
入所施設（病院・診療所・介護療養型医療施）



介護老人保護施設



その他の介護サービス事業



※ 回答事業所数：541

4-2. 外国人受け入れ意欲について

外国人雇用をしていない事業所に、外国人の受入意欲について聞いたところ「不安や抵抗がある」と回答した事業所は半数以上を超えました。

外国人受け入れ意欲

1位	やや不安や抵抗感がある	(44.2%)
2位	不安や抵抗感がある	(33.6%)
3位	特に不安や抵抗感はない	(22.3%)

※ 回答事業所数：292 ※ 3位まで抜粋

4-3. 外国人受け入れに対する不安内容

実際に外国人を雇用している、事業所の不安や抵抗の1位には、「日本語能力 (82.3%)」次いで、「価値観が違うこと (56.6%)」「介護技術の取得に時間がかかること (43.8%)」と続きます。

外国人を雇用していない事業所の、不安や抵抗の1位には「日本語能力 (77.7%)」次いで、「価値観が違うこと (63.7%)」となり、実際に受け入れている企業との差は、みられませんでした。

外国人雇用の不安や抵抗内容

雇用している			雇用していない		
1位	日本語能力	(82.3%)	1位	日本語能力	(77.7%)
2位	価値観が違う	(56.6%)	2位	価値観が違う	(63.7%)
3位	介護技術の取得に時間がかかる	(43.8%)	3位	宗教関係	(35.3%)
4位	今いる職員との関係性が崩れないか	(32.1%)	4位	今いる職員との関係性が崩れないか	(25.7%)
5位	制度部分が複雑	(31.3%)	5位	介護技術の取得に時間がかかる	(23.3%)

※ 回答事業所数：249 ※ 複数回答

※ 回答事業所数：292 ※ 複数回答

※ 5位まで抜粋

4-4. 外国人雇用でどのような環境変化が見られたか

実際に外国人雇用をしている事業所に外国人雇用後の環境変化について聞いたところ、

1 位は「人材不足が軽減し解消された (55.4%)」となり、次いで「異文化理解が深まった (41.8%)」「国籍を問わずに優秀な人材の確保ができるようになった (34.9%)」と続きました。

外国人雇用後の環境変化

1位	人材不足が解消・軽減された	(55.4%)
2位	異文化理解が深まった	(41.8%)
3位	日本人国籍問わず優秀な人材の確保が出来るようになった	(34.9%)
4位	日本人職員の意識が高まった	(29.3%)
5位	職場の雰囲気が良くなった	(25.3%)

※ 回答事業所数：249 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

4-5. 外国人受け入れ時、不安に感じたこと

外国人受け入れの不安要素の1位には「日本語能力の懸念(69.9%)」があげられ、外国人を雇用する際の重要視するポイントの1位には「日本語能力(80.0%)」があげられました。

在留資格や業種によって求められる日本語能力は異なり、日本で働く外国人の多くがN4(基本的な日本語を理解することができるレベル)以上の日本語能力を身につけていますが、雇用する側は「日本語能力」を重視しているようです。

外国人受け入れの際、一番不安に感じたこと

1位	日本語能力への懸念	(69.9%)
2位	チームワークや協調性への懸念	(41.4%)
3位	外国人向けに研修などが整備されていない	(39.0%)
3位	文化や職場習慣の違いによる日本人社員との衝突への懸念	(39.0%)
4位	介護技術取得に時間がかかることへの懸念	(34.9%)

※ 回答事業所数：249 ※ 複数回答 ※ 4位まで抜粋

外国人採用時に重要視するポイント

1位	日本語能力	(80.0%)
2位	コミュニケーション能力	(71.7%)
3位	性格	(54.5%)
4位	協調性	(33.3%)
5位	専門知識や技能、資格	(29.4%)

※ 回答事業所数：541 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

4-6. 外国人を実際に受け入れて困ったこと

外国人を受け入れて実際に困ったことの1位には「意思疎通がうまくとれない (45.8%)」があげられ、次いで「日本の文化や習慣の理解が不十分 (40.6%)」「仕事に対する価値観が違う (38.6%)」と続きました。

外国人を受け入れてから実際に困ったこと

1位	意思疎通がうまく取れない	(45.8%)
2位	日本の文化や習慣の理解が不十分	(40.6%)
3位	仕事に対する価値観が違う	(38.6%)
4位	自己主張が強い	(30.5%)
5位	仕事内容や進め方に時間がかかる	(25.3%)

※ 回答事業所数：249 ※ 複数回答 ※ 5位まで抜粋

4-7. 雇用している外国人の国籍と在留資格

介護事業所で雇用している外国人の国籍は、「ベトナム (52.2%)」「中国 (47.0%)」「フィリピン (43.4%)」が多いことが明らかになりました。

雇用している外国人の在留資格については、「身分に基づく在留資格 (65.9%)」「技能実習 (60.2%)」が上位を占めました。

雇用している外国人の国籍

1位	ベトナム	(52.2%)
2位	中国	(47.0%)
3位	フィリピン	(43.4%)
4位	インドネシア	(32.1%)
5位	ミャンマー	(26.1%)

※ 回答事業所数：249 ※複数回答 ※ 5位まで抜粋

雇用している外国人の在留資格

1位	身分に基づく在留資格 (日本人配偶者、永住者など)	(65.9%)
2位	技能実習	(60.2%)
3位	特定技能	(33.3%)
4位	EPA	(22.9%)
5位	その他	(1.6%)

※ 回答事業所数：249 ※複数回答 ※ 5位まで抜粋

4-8. どのように採用しているか

外国人採用の半数は、「人材会社（もともと繋がりがあった人材会社）」を通して採用している事業所が多いことが分かりました。

外国人採用の手段

1位	人材会社経由（もともと繋がりのあった人材会社）	(50.6%)
2位	職場の知り合い経由	(34.9%)
3位	技能実習経由	(31.7%)
4位	人材会社経由（知り合いから紹介された人材会社）	(30.1%)
5位	その他人材会社	(26.1%)

※ 回答事業所数：249 ※複数回答 ※ 5位まで抜粋

きらケア介護白書 2020

<調査概要>

調査目的：介護士・介護事業所の実態把握

調査期間：2020/06/08 ～ 2020/06/10

調査方法：インターネット調査

介護士側調査

<有効回答数>2188s

<調査対象>18歳～69歳男女

<男女内訳>男性 766s 女性 1422s

<勤務事業所内訳>

訪問介護 335s

デイサービス 306s

入所施設（グループホーム）201s

入所施設（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム）531s

入所施設（有料老人ホーム）234s

病院・診療所・介護療養型医療施設）152s

介護老人保健施設 150s

その他の介護サービス事業所 279s

<雇用形態別内訳>

正職員（フルタイム）1369s

正職員（時短）26s

契約社員 142s

アルバイト、パート 635s

その他 16s

介護事業所側調査

<有効回答数>541s

<調査対象>介護事業所に勤める採用担当

<男女内訳>男性 367s 女性 174s

<事業所別内訳>

訪問介護 39s

デイサービス 80s

入所施設（グループホーム）29s

入所施設（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム）81s

入所施設（有料老人ホーム）40s

病院・診療所・介護療養型医療施設）171s

介護老人保健施設 26s

その他の介護サービス事業所 75s

発行年

2020年10月

レバレッジズ株式会社 きらケア

自分らしく働ける介護を。



PRODUCED BY Leverages